

# 令和4年産やさいの産地動向と販売見通し

当JAでは、野菜を通年で出荷しており、冬中にはにんにくの出荷が行われ、4月にはアスパラガスなどの出荷が始まりました。

4月号では、当JA産やさいの販売に尽力している市場代表者の、販売見通しをご紹介します。



荒谷 晃好

JA全農あおもり青果物研究会  
やさい部会 副部会長  
青森合同青果株式会社  
取締役野菜部主管

平素より格別のご出荷を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年は一年を通して全国的に気温が高い状態が続き、青果物の価格にも大きく影響しました。冬春野菜は暖冬により生育が前進し供給過多から軟調相場が続きました。北日本では梅雨明け以降高温干ばつとなり、北海道産土物類の大不作につながりました。秋冬野菜は台風が発生が少なく生育良好で、露地野菜を中心に相場低迷が長期化しました。品目別にみるとにんにくが前年の半値以下、はくさい、キャベツ、ピーマンなども前年の2割以上の単価安になりました。

消費の伸びは落ち着いたものの、時短要請解除で飲食店を中心とした加工業務需要は盛り返しつつあります。また、世界的なコンテナ不足や輸送コストの上昇により輸入野菜は減少傾向にあり、国産野菜の引き合いが強まることが予想されます。

JA津軽みらいの野菜は青森市場においては引く手あまたです。冷涼な気候で育った高冷地野菜は高温期でも良好で安定した品質が高く評価され、飲食店を中心とした業務需要から小売店での定番商材まで幅広くご愛顧をいただいています。年々消費が伸びているミニトマトはまだまだ需要が増大しそうです。ときわにんにくは地域団体商標登録によってブランド力にさらに磨きがかかり他産地との差別化を大きく後押ししてくれそうです。御地の野菜は多くのお客様から絶大な信頼を寄せられており、当市場にとってなくてはならない存在です。



沼沢 仁

JA全農あおもり青果物研究会  
副会長  
浦和中央青果市場株式会社  
常務取締役

JA津軽みらいの組合員の皆様、平素は各関係機関を通じまして多大なる青果物のご出荷、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの大流行から3年目を迎える年となりました。昨年度においては、緊急事態宣言、ならびに度重なる蔓延防止対策に

より様々な部分において制限がかかってしまいました。飲食店等においては時短営業及び業務関係においては規模縮小と、青果物の販売においても非常に厳しい環境下でありました。

令和4年産の産地動向でありませんが、全国的にみて各品目とも前年並の作付けもしくは品目においては減少傾向であると考えられます。特に北海道を中心とした根菜類においては、作付面積が減少しております。毎年の異常気象の影響もありません。果菜類、特に大玉トマトに

思われますが、出来る限りでの消費宣伝、メディアを活用した商品案内、そしてJA津軽みらい各地区の担当者の皆様から情報をしっかりと取り、有利販売に努めて参りたいと思います。

結びに、組合員の皆様には「安心・安全・新鮮・おいしい」青果物を一杯出荷して頂き、我々指定市場としては、必ず有利販売及び高値販売につながることをお約束してまいります。今年度においては、前年度以上のご出荷宜しくお願いいたします。



今枝 健二

中部青森会 会長  
名古屋青果株式会社  
専務取締役

限がかかる販売環境下であろうと

平素、市場流通に対してご理解とご協力を賜っておりますこと厚く

御礼申し上げます。

全国的な作付傾向については、肥料はじめ経費の上昇もある中で概ね例年並になる情報です。また水田の利用高度化としてキャベツ・玉ねぎ等加工業務向けの生産が増加する傾向もあります。

輸入品については、不安定な輸送事情に加え円安も伴い、国産品の供給不足、国産品が価格高騰した場合には増加するような状況です。

販売面ではまず消費の傾向を整理します。一世帯当たりの消費支出額は増加していないこと。生鮮やさい向けは令和2年を除き減少傾向で加工調理食品が増加していること。パン、麺、肉、調味料、油脂、加工食品などの価格上昇の影響があることです。消費形態は生食(内

今年も計画的で安定したご出荷を願います。

今年度は青森市場開設五十周年の節目の年にあたります。永きにわたるこれまでのご出荷に感謝申し上げますとともに、さらなる産地発展のため努力してまいりますので、今後ともよろしく御礼申し上げます。

様々な社会現象が複合的に産消に影響する昨今ですが、精一杯の勉強をして参ります。今後とも貴重な青森産やさいの生産維持・拡大とご供給をよろしく御礼申し上げます。

食材料)・カット・チルド・冷凍・惣菜など多様化、細分化されて来ています。以上の需給環境の中で各品目を考えてみますと、にんにくについては輸入が落ち着き青森産での需給コントロールが比較的可能です。反面、周年安定供給を担うべき立ち位置にあります。トマトについては、夏季の高温化もあり赤い・堅い・糊持ちが良いといった品質が要請されています。またミニトマトやミニトマトも用途の多様化から生産の検討をすべき対象です。ハウス葱については、業務および小売り両面での可能性がある品目です。